



写真1 権現堂古墳の横穴式石室と家形石棺

巨勢(許勢)氏は本拠の巨勢谷に多くの古墳を築造しますが、盟主墳としては前号で触れた以外に権現堂古墳、新宮山古墳、水尻南古墳、水尻北古墳を挙げることができます。

## ふるさと御所 文化財探訪

其の四十二

古墳時代(30)

巨勢(許勢)氏の台頭(2)

巨勢谷の横穴式石室①

文化財課  
☎60-1608



写真2 新宮山古墳の家形石棺(前棺)

新宮山古墳は径約25mの円墳と考えられていますが、前方後円墳の可能性も指摘されています。石室は南東方向に開口する両袖式の横穴式石

権現堂古墳は6世紀前半に築造された直径約25mの円墳で右片袖の横穴式石室です。石室は奥壁側が破壊されており、通常とは逆の方向で内部を見ることができません。石室に置かれた刳抜式の家形石棺(写真1)は内部に頭部に置く枕施設(石枕)が造り付けられており、南枕に埋葬されたことが分かります。石枕が見られる家形石棺は御所市条池南古墳と当古墳の他に類例がありません。実はこの棺は奥から2棺目で、墳丘外に引き出されて放置されているのがこの古墳の初葬棺です。

横穴式石室はもとも初葬の人物に続き、次々と追葬することが可能な構造になっていますが、通常は追葬棺は木棺など、より簡易な構造の棺であるのに対して、巨勢谷の古墳

室で、権現堂古墳よりも新しく、6世紀中葉に築造されました。使用石材は権現堂古墳よりやや大きく、玄室内の奥壁側には緑泥片岩の組合式の箱形石棺が存在しており(写真2)、さらにその前面には刳抜式の家形石棺が安置されています。この刳抜式の家形石棺は兵庫高砂市で産出する竜山石で、この時期に用いられる石材としては非常に珍しいものです。また棺身内部は真っ赤に朱が塗られており、邪悪なものを近づけない、または封じ込める意図によるものとされています。

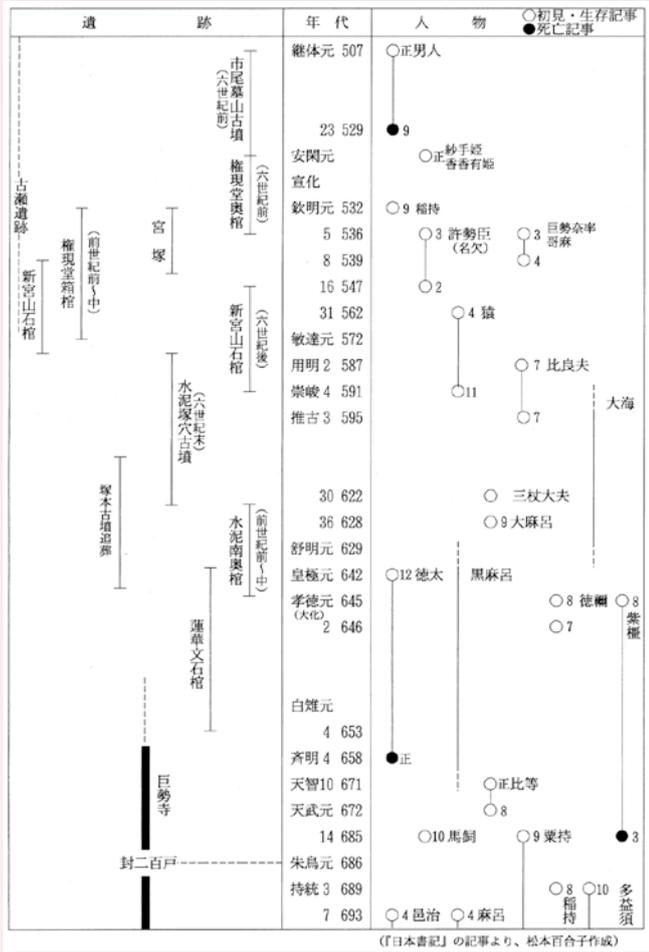


表1 巨勢谷の古墳と巨勢氏

【参考文献】

河上邦彦『後・終末期古墳の研究』、

1995年、雄山閣

(文責 井ノ上 佳美)